

2年次アンケートに見る学部移行

新しい移行点算出基準単位と成績評価が適用された最初の学年である今の2年生は、学部・学科移行に何を思ったのでしょうか。前回の新生アンケートの結果に引き続き、今回は「2年次アンケート2016」*における「学部・学科等移行を経験して良かった点と改善した方がよい点」の回答からお伝えします。

*4月7日～4月25日実施

一良かった点① 時間をかけて自分の興味を探れた

やはり総合入試のウリはこれです。「幅広い選択肢を与えられたことで視野が広がった。」「様々な分野の授業を踏まえて進路を決めることができた。」「上級生から詳しい話を聞くことが移行先決定に役立った。」など高校時代には知らなかった知識を元にじっくり志望学部を決められたという声が目立ちました。

一良かった点② 交友関係が広がった

「他学部の友達ができた。」「他学部の人と交流しやすい。」このような回答も少なくありませんでした。一年次に同じクラスだった仲間が様々な分野に散らばって行きます。年月が経つにつれて、これが総合入試の隠れた利点であることに気付くはずです。

一良かった点③ 勉強の意欲が湧いた

移行点による競争をプラスにとらえることができれば、一年を通してしっかりと学業に励むことができるでしょう。「一年間緊張感を持って勉強できた。」「勉強にちゃんと向き合えた。」という回答が寄せられました。

その他にも志望調査や学部・学科等紹介が良かった、移行の際に志望順を考慮しない点が良かったという回答も見られました。次は改善した方がよい点として寄せられた回答です。

一改善点① 成績のつけ方の違いを無くすべき

「移行点が気になって楽な授業ばかり取ってしまう。」「移行点のために成績の取れる授業を取る学生が増えて、何か違うような気がした。」「先生によって成績分布が異なる点。」これは前号のコラムでも取り上げた内容です。授業によって成績のつけ方に甘い・厳しいの違いがあれば総合入試を行う上で問題ですが、どの程度を違いがあると見なすかが難しいところですが、このことに関連して「統一試験を行ってほしい」という意見もありました。

一改善点② 入試の前期日程でも学部別入試を行うべき

「全学部で学部別入試をした上で総合入試もしてほしい。」「前期試験でも各学部を受けられるようにするべき。」「前期日程で志望学部の学部別入試が実施されていないということで総合入試を選んだ学生にとっては、成績次第で他の学部になってしまうかもしれないというプレッシャーは小さくないでしょう。確かに学部別入試も(前期日程で)実施される上で総合入試を選んだということであれば、移行の納得度は違うのかもしれませんが。

一改善点③ 物理選択者と生物選択者にある差をなくすべき

「[移行点上の]物理必修は生物選択者にとってきつい。」「物理選択者と生物選択者で明らかに不公平。」「物理Ⅰ,Ⅱと生物学Ⅰ,Ⅱで移行点への算入の仕方が違うという現行のルールへの言及も複数見られました。このルールは移行にまつわる様々な事情を総合的に考慮した上で決められたものです。

その他、移行の際に移行点だけでなく面談やレポートでの評価も取り入れて欲しいという意見がありましたが、さすがにこれは現実的ではないでしょう。多くの利点がある総合入試ですが、これから改善できる点もあるのかもしれませんが。(浅賀圭祐)

スタッフの心象 第11回「学習サポートの意味」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

学生「この答えであっていますか??」

学習サポートの対応中によく聞く言葉ですが、ときどき違和感を覚えます。既に問題への取り組み方・考え方は十分に説明し理解してもらっています。後はそれらを自分の理性と照らし合わせて推論すれば、容易に正誤を判断できる状況のはずなのです。このような学生はどうやら、相手の同意が得られないと自分の推論や判断に自信が持てないように見受けられます。

(お決まりのフレーズですが)全く最近の若い者はどうも自分で判断する力が欠けているように思えてしまいます。それを身につける唯一の術は自分自身で考え抜き判断することを繰り返すことです。いつまでも人に助けられていては駄目だし、考え方に自信がないならば、その部分について質問し直して、それを元に再度自分で問題に取り組む必要があります。

学習サポートの役割の一つは、学生に主体的な学習姿勢を身につけてもらうということです。課題の答えを手取り早く教えてもらえる制度では決してないし、答え合わせをして答えが正し

いことを保証してくれるような都合の良い場所でもありません。しかしこのように学習サポートを利用しようとする学生が少なくありません。勘違いして欲しくないのは、学習サポートを利用しても楽は出来ないということです。寧ろ苦労してもらった場所です。とてもとても苦労してもらえけれど、その代わり正しい考え方や理解の仕方、判断する能力を時間と労力をかけて身につけてもらいます。考え方や取り組み方については言葉と時間を尽くして説明します。その代わり、それを適用し判断するのは自分自身です。具体的な課題や問題に対するやり取りは表面上のものに過ぎず、それを通じて本当に育てたいことは、主体的に考え判断していく姿勢なのです。

サポートを受けた経験を通じて、自分で考え、判断し、ゆっくりでも一歩ずつ確固たる歩みをして行ける人間になって欲しいと願います。今後の人生で待ち受けているのは、誰も答えを知らない、答えがあるかも分からない、そんな問題ばかりです。(清水将英)



☆新企画 ラーサポ ベストラーナーシリーズ☆

修めた学生を“ラーサポベストラーナー”と称し、勉強への取り組み方や進路決定にまつわる紆余曲折などを綴って頂きます。

ラーサポを何度も利用し、かつ優秀な成績を

今回のベストラーナーは自身の興味をとことん追求し東大にまで研究室訪問を行った薬学部薬科学科2年の原田芽生さんです。物静かに見えて熱い情熱を内に秘める彼女の興味は、どのような経緯を辿り、どこへ向かって行くのでしょうか。

「本当に好きなことを探る」

薬学部薬科学科2年 原田芽生

私は大学生活で「自分の好きなことを思いつきり学ぶ」ことを大事にしています。この考えに従った結果、私の進路選択は高校時代に考えていたものとは大きくかけ離れたものになりました。しかし今は自分の好きなことを色々な方にサポートしていただきながら思いつきり勉強できていると思います。今回は進路選択の大きな転機となった大学1年生時代について書いてみたいと思います。

私は高校時代、物理・化学・生物が好きで、これら全てを使えるような学問がしたいという理由から薬学部を学部別入試で受験し、入学しました。1年生の教養課程でこれらを全て学びましたが、学んでいくうちに自分は物・化・生ならなんでも好きというよりも、これらの学問の中にある分子・原子レベルの世界を扱う部分が好きなのだと気付きました。それはちょうど化学の授業で量子化学を学んでいる時でした。量子化学は化学の中でも分子・原子を取り扱う分野なので、当時の自分にとっては興味のだ真ん中を貫くような学問でした。たちまち量子化学にはまり、もっと勉強してみたいと思いましたが、自分でやるには難しすぎたので誰かに教えてもらいたいと思いました。

そこでシラバス検索で量子化学の授業を探し、工学部応用理工系学科応用化学コース2年次の量子化学の授業を担当の先生をお願いして受けさせていただき

ました。授業は理解に苦労する部分も多かったのですが、量子化学は分からないことさえ楽しく思えるようなとても面白い学問でした。特に化学反応や発光現象が計算によって解析・予測できるということにとっても感動し、自分も将来このような計算を扱ってみたいと思いました。

当時この考えは単なる将来の憧れの話でしたが、冬休みに北大で「ほくほく科学」という、理系の分野が好きな学生が集まり自由に語り合うイベントに出席したとき、偶然にも以前そういったことを研究していた方に出会いました。その方のお話がとても面白かったため、以前所属していた研究室をお聞きして、東京大学薬学部の研究室を知りました。そのとき初めて大学院でこういった研究をすることを具体的に考え、様々な大学の大学院を調べましたが、薬学部で計算を主に扱っている研究室はそこしか見つかりませんでした。また、私は計算と共に実際に手を動かす実験も含めた研究をしたいと思っていたので、その研究室はどちらも扱っていて自分の希望によく合っていると感じました。

しかし研究室のHPだけでは具体的にどのようなことをしているのかがよくわからず、実際に連絡を取って見学させていただくことにしました。自分が先生のお話についていけるのかとても不安でしたが、お会いした先生はとても親切で、自分



(理化学研究所にて、避難訓練参加後に撮影)

たちがこれまでにした研究や量子化学についてのお話を沢山していただきました。それら全てが自分にとって本当に興味が持てる内容で、4時間ずっと話してしまうほど本当に楽しい時間を過ごしました。その時先生から夏休みに東大に来て計算を勉強しないかとのお誘いを受けました。そしてこの原稿を書いている今、私は(先生の都合等もあり)毎日理研に通い、計算を教えていただくという大変貴重な経験をしています。今後も計算と実験の両方を使える研究者を目指して勉強を続けていきたいです。

こうして現在、私は大学入学時には考えてもみなかったような場所で存在すら知らなかった学問に取り組んでいます。1年生の皆さんも高校時代に進路について十分考えたことと思いますが、大学には高校時代には想像がつかないほど広く多様な世界があります。私自身、この話だけだと一本道を進んできたように感じられるかもしれませんが、実際は沢山の寄り道をして、自分が本当に好きなことを探ってきました。大学1年生はまだまだ失敗が許されますし、合わないと思ったら引き返せる時期なので、今のうちに失敗を怖がらず色々なことを経験してほしいです。私の話が大学生活を目一杯楽しむためのヒントに少しでもなればと思います。

編集後記

総合教育部では2学期の全学教育科目の授業が始まり、ラーサポには時間割や履修の質問・相談が多く寄せられています。皆さんの言葉の中に、1年生ならではの学習の疑問や将来への不安が見え隠れします。疑問や不安を持つことが悪いことだとは思いません。疑問は新しいことを知りたいと思う心の動き、不安は希望の裏返しと言います。この秋が皆さんの大学生活にとって実り豊かなものとなることを願っています。

(多田泰紘)



ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 電話:011-706-7526 E-mail:lso@high.hokudai.ac.jp
北海道大学高等教育推進機構2階 URL:http://asc.high.hokudai.ac.jp/

次号は12月発行予定です